

日本一の甘えん坊

ijousya

甘直クン

我が身内に甘直クンと言う者がおりました。
彼と私は歳の差が20歳ぐらいあります。

私が小学生の頃から、たまに会っていましたが
小学生の私から見てもバカで幼稚なガキみたいな大人と言う
印象の人でした。

それは、何年経過しても変わらず、とにかく自分に甘い。
人にあまえる。威張って怒鳴って。うまくいかない泣きを入れる。

身内一同からバカにされていた料理人でした。

甘直クンは我が身内にとってトラブルメーカーで
迷惑だけをかけていました。

自分の腕は超一流といい実際はママゴトの領域なので
誰からも認められず自分は一流だ一流だと言いまくっていました。

しかし結果が出せない一流なんてないわけで
そのことに気づけよって感じでした。

我が家に金がないと散々、泣きを入れていて
莫大な額の金を甘直クンに貸してやったらしいです。
勿論、甘直クンは身内だから助けてくれるのが
当たり前だと思っていた感じの人なので一円も返して
もらっていません。

調理師として、何十年もやっていましたが、
口は一流、腕は3流で誰からも認められないので
職場を転々としていました。
しかし、どれだけ転職を繰り返しても、
彼は相変わらず口だけが
一流なので誰からも認められませんでした。

そして身内に散々八つ当たりと自慢話をしていました。

そして上手くいかないと、すぐに泣きを入れていました。

2 回目の出店

甘直クンが自分の店を出したことが過去に
二回ぐらいあります。

一度目は彼が30歳ぐらいの時。
うどん屋かなんかを出しました。

そして客が来ない。来ない。
胃が痛い。胃が痛い。と
散々、泣きを入れに来ていました。

そして、店を出して3ヶ月持ったか持たなかったかと言う
間にあっというまに閉店しました。

それから15年後、小さな寿司屋を出しました。
岐阜市茜部、屋台横丁と言うところで日の出寿司と言う
店を出しました。出店は10万円ぐらいで出せたようですが
それも借金だったようです。

その当時の甘直クンも相変わらずの甘えっぷりで
店だす前は散々、大口を叩いて、俺が店を出せば
どんだけでも客が来て、どんだけでも儲かる。
俺の腕は超一流だと大口を叩いていました。

そして、店を出したらやはり客は来ず、
またしても胃が痛い。客が来ない。暇や。
と散々、泣きを入れに来ました。

相変わらず見事な甘えっぷりでした。

今回は1年持ったか持たないかって
ぐらいで潰れたみたいです。

市営住宅

甘ったれ君は市営住宅に住んでいました。
そして、金は、いくらでもあると豪語していました。
そして何かあると金ない。金ないと泣きをいれ
情けない奴やと思いました。

しかし、これほどにまでに自分に甘い奴も
珍しいなあって思いました。
そして威張り散らかして怒鳴り散らかして
すぐに泣きを入れる。
ヨイショしてやれば、すぐに調子に乗る。
誰にも嫌われていました。

40歳過ぎても、そんなことに気づけない。
40歳過ぎて自慢話と甘ったれ話の
オンパレード。彼は一体、何の為に
生まれきたのだろうと思いました。

身内に迷惑だけをかけて、
誰からも必要とされず
料理人として何十年やっていても
3流以下のままで、
異常者言動と異常者行動ばかりしておかしな奴や。

しかし、何故に自分は一流だと思っている
のだろうか。一流の結果など、どこにも残して
いないし、自分で自分のことを仕事で
誰にも負けたことなかったと言っていたけど
実際は負けっぱなし。
一体、何を根拠にそんなことを
言っていたのだろうか。

そりゃ、確かに、これから調理師を
始めようと新しく入ってきた新人さんよりは
勝っているかもしれない。
包丁も握ったこともない人と勝負すれば

勝っているかもしれない。

そんな勝負の世界の勝ちには勝ったうちに入らない。40歳を過ぎても、そんなことも分からない奴だった。

そして、少し経てば、そんな奴らに
どんどん追い抜かれ追い越されていく。
それでも調理師と言う仕事を長年やっていた
ことだけは認めてやらないといけないのかもしれない。

日本一の甘えん坊

甘えてる

甘えてる

大人になっても甘すぎる

日本一の甘えん坊

そんなテーマソングでも

流しながら背中に日本一の甘えん坊と言う

刺繍付きの服を着て仕事をすれば

彼はすぐに人気者になれると思います。

何故ならば、だれもが認めるぐらい

自分に甘いからです。

日本一の甘えん坊が出した店と

言うことを謳い文句にしていたら

彼が過去に失敗した二件の店も

繁盛したかもしれません。

今からでも遅くはないかもしれない。

日本一自分に甘い人と言うキャッチフレーズで

実際に日本一自分に甘い奴がいるのなら

見てみたいと思う人は世の中にたくさんいると思うので

いつも通りの自分でいればいい。

漫画の世界のような人物なので

面白おかしく動物園にでも来るような感覚で

彼の店を訪れるかもしれない。

しかし彼はプライドは高いので

絶対にそんな真似はしないでしょけど

それをやった方が彼にとっても幸せに

なれると思います。

腕は3流以下かもしれませんが、
それでも調理師と言うのは一つ
職人なわけです。職人技と言うのは
心技体が揃っていないと駄目なものだと思う。

一流の料理人は心技体が揃っているものだと思う。
甘ったれクンは、何一つ持っていないかもしれない。
心が弱く体が弱く技はない。口だけは一流。

そして味と言うのは心の味も味に反映される
ものだと思う。彼の甘ったれ神経では
どんなものも甘くなってしまう。
顔に言葉に自分への甘さが滲み出ている
ような奴だったから、きっと料理にも甘さが
滲み出ていたと思う。

言葉の影響力で結構、すごいらしく
料理とか飲み物とか、その人が言っている
言葉によって味を変えるほどの力があるらしい。
それが本当であれば、おかしなことばかり
言っている甘ったれクンは、
3流の腕で作ったものの味をさらに落としている。

彼が料理人であり続ける限り、
彼がおかしな言動ばかり繰り返してる限り、
彼の料理を食べて旨いと感じる者はいないのかもしれない。